

デジタル学習 or アナログ学習 ～効果的な活用法は!?!～

文系 1 2 班

研究員：岡本瑛斗 柴田悠登 菊池彩香 檜垣瑠花

助言者：工藤恵美子

1. 研究の背景・目的



背景：フィンランドは脱デジタル化へ
日本はデジタル化へ... 我々の進む先は!?!

ロイター
(2024.9)

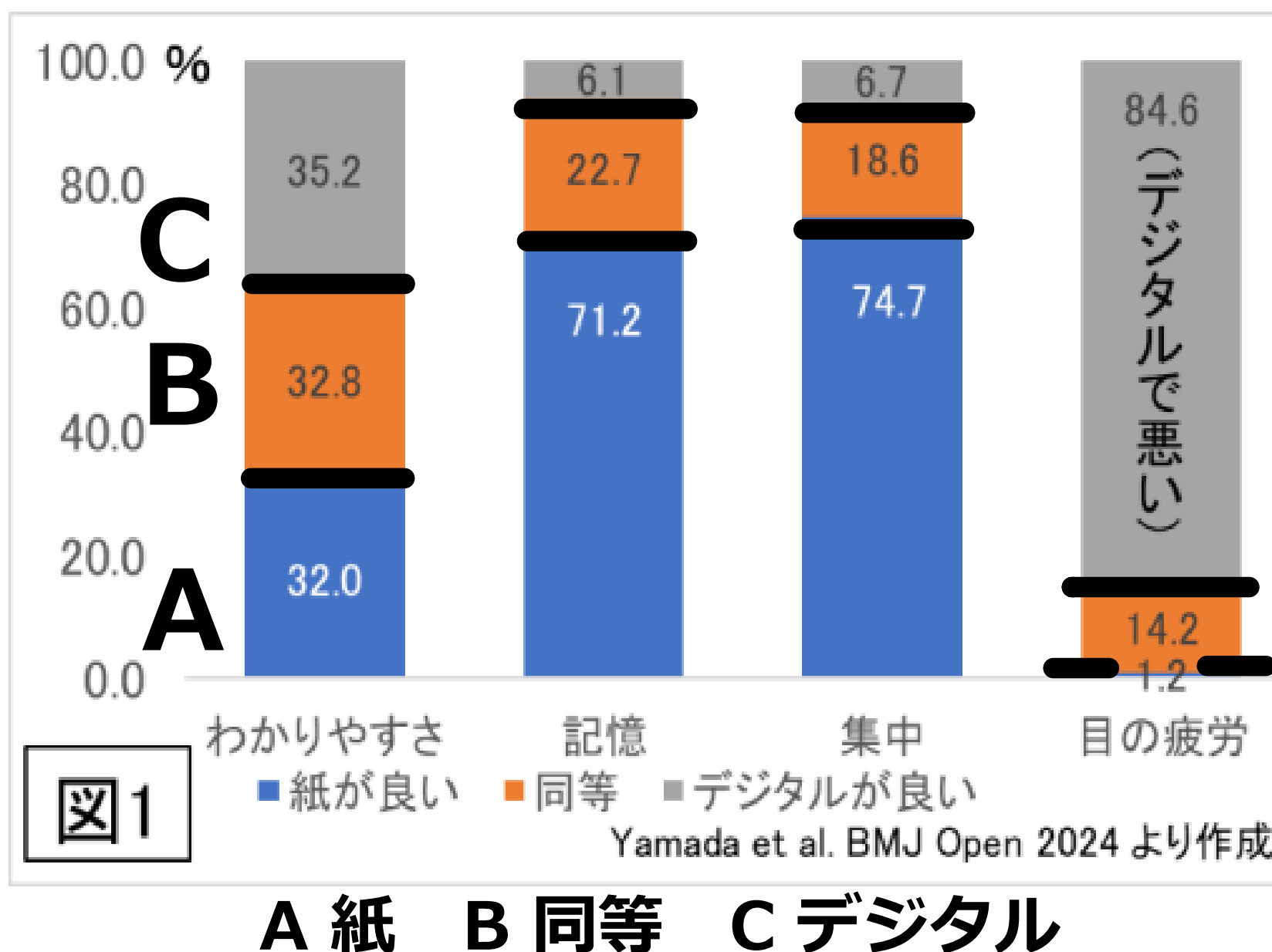
目的：日本での効果的な用い方を明らかにする。

- ① デジタル機器で学習する方法
- ② 紙媒体で学習をする方法



2. 先行研究

(富山大学2024・琉球大学2018)



富山大学(2024)

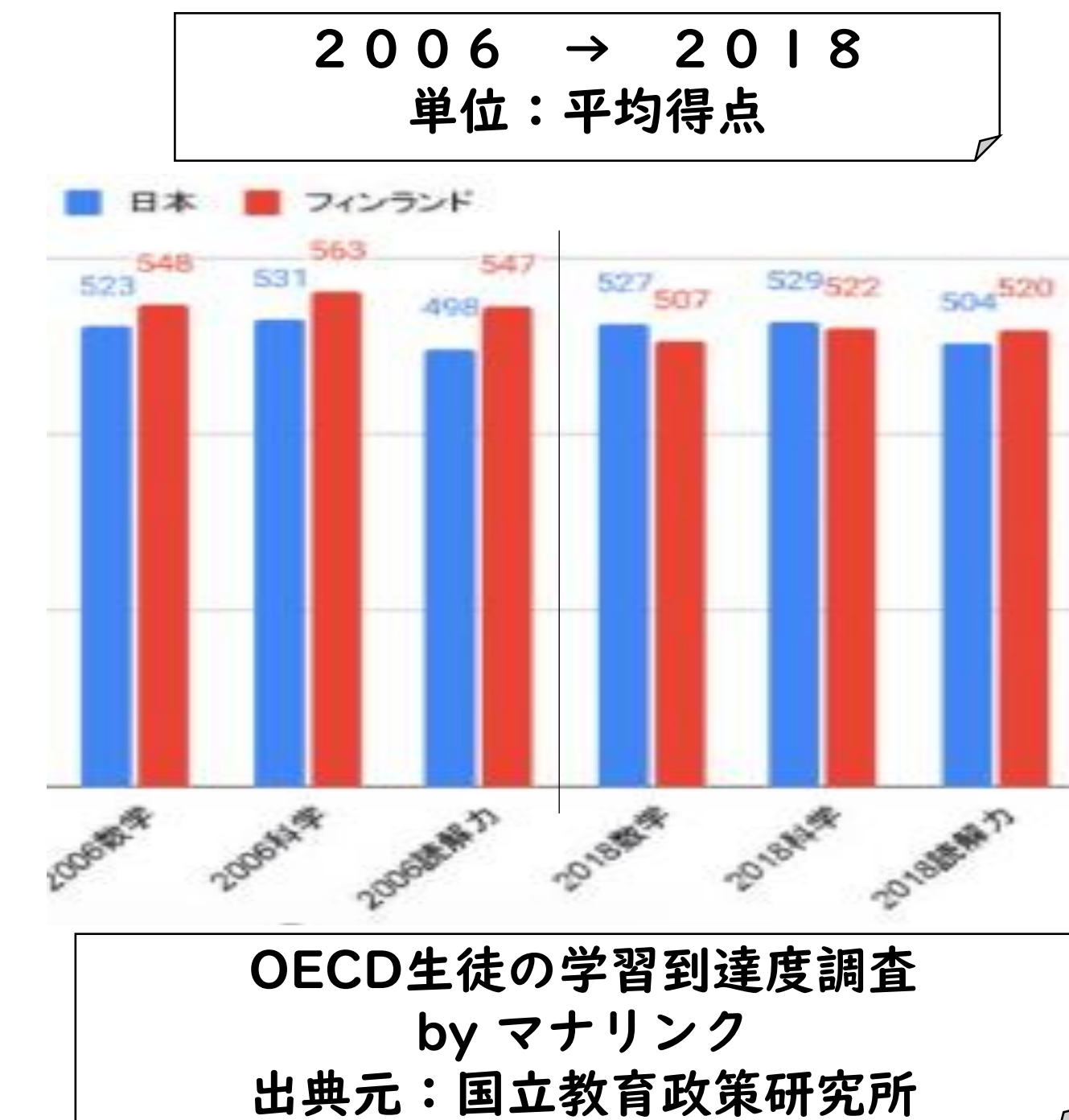
- ← 1 分かりやすさ ほぼ同率
- 2 記憶・集中 **紙** > デジタル
- 3 目の疲労 **デジタル** ×

琉球大学(2018)

- ・ 学習成果○
実物版 > iPad 版
6名 3名
- ・ 生徒の嗜好○
実物版 < iPad 版
1名 **8名**

4. 研究方法

- ① 紙とデジタルでグループ分け
→ 各分野（記憶、わかりやすさ等）において同じ条件下で学習に取り組む。
- ② 協力者へのアンケート実施
→ 学習成果をデータ化する。
- ③ 先行研究との比較
→ **日本ではどのような形での活用が学習効果につながるのか検討する。**



5. 体験・調査によって得た情報と課題

<得られた情報>

- ・ 記憶・集中力に関しては、**紙を用いたグループの方が結果が良好**であった。
- ・ 研究メンバー内で行った実験では、**紙の方が集中できた。**
- ・ 成果が低くとも**デジタル版を好む傾向が見られた調査もある。**

<今後の課題>

- ・ 協力者がまだ少数のため、**正確なデータが収集できていない。**
- ・ 数値化することが困難な調査方法があり、先行研究も少ない。

3. 仮説

仮説1：全体としては、紙での学習が効果的なのではないか。

仮説2：学習意欲はデジタルの方が高まりやすいのではないか。

6. 今後の研究

- ・ 学習意欲（エンジンの役割）に繋がるのは、どちらか。
- ・ 学習のモチベーションを保ちやすいのは、どちらか。
- ・ 長期学習の際、各々どのような場面で効果が得られるのか。